

## 父島列島生態系保全管理WGの設置について

### 1. 種間相互作用に着目した検討経緯

- ・小笠原諸島では、特定の種のみを視野に入れた外来種対策ではなく、複雑な種間関係を明らかにし、関係機関が、その知見を踏まえ効率的・効果的な外来種対策を戦略的に実施していくことが重要となっている。
- ・このため、平成 20 年に科学委員会のもとに設置された種間相互作用ワーキンググループ（以下、種間相互作用WG）では、兄島中央台地上の乾性低木林を対象として種間関係に関する検討を行い、外来種対策を効率的・効果的に実施していくための「森林生態系保全管理手法ガイドライン・兄島モデル」を平成 25 年 3 月に策定した。

### 2. 平成 25 年度からの検討の方向性

- ・小笠原諸島の生態系は、それぞれの島での特徴的な生物相だけでなく、昆虫類や鳥類など島間移動する種によっても支えられている。そのため、兄島でのグリーンアノールの分布拡大は、兄島のみならず父島列島全体の生態系に対する壊滅的な影響が懸念される。
- ・現在、兄島ではグリーンアノール根絶に向けた集中的な取組みが実行されているが、今後、グリーンアノールを含む外来種対策を戦略的に実施していくためには、父島列島全体を一つの生態系として捉え、種間相互作用に基づいた順応的な生態系保全管理を実施していく必要がある。
- ・そこで、父島列島全体の森林生態系を一体的に維持・復元していくために必要となる基礎的知見を蓄積することを目的として、主に父島・兄島・弟島を対象として、モニタリング調査等によって種間関係を解明するとともに、父島列島における森林生態系保全管理手法の開発を目指す。

### 3. 検討体制

- ・平成 20 年～平成 24 年に開催した「種間相互作用WG」を発展的に継続することとし、名称を「父島列島生態系保全管理ワーキンググループ」とする。
- ・メンバーは、「種間相互作用WG」をベースとして、鳥類の専門家（川上和人氏）にも新たに加わっていただく。

名 称	父島列島生態系保全管理に関するワーキンググループ
設置期間	・平成 25 年～29 年度（予定） ・平成 25 年度には 2 回開催（8 月頃、2 月頃を予定）
管理機関	林野庁、環境省、東京都、小笠原村
メンバー (★：座長候補)  (敬称略・五十音順)	大河内 勇◎ 森林総合研究所 理事 ★可知 直毅◎ 首都大学東京大学院 教授 苅部 治紀◎ 神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員 川上 和人 森林総合研究所 主任研究員 清水 善和◎ 駒澤大学 教授 千葉 聡 ◎ 東北大学東北アジア研究センター 教授

(◎：種間相互作用WGメンバー)

## 4. WGでの検討内容

### (1) 具体的な検討内容

- ・過去の知見や現地でのモニタリング調査結果に基づき、種間関係について、将来予測図や新たな侵略的外来種が侵入した場合の想定図の作成、「父島列島・森林生態系保全管理モデル（仮称）」の策定に向けた検討を行う。
- ・検討の観点は、以下のとおり。

- 主な外来種と在来種をとりまく種間関係
- 主な外来種の今後の動向予測、駆除の際に種間相互作用の観点から留意すべき点
- 在来種が依存する外来種の取扱い、必要な対策の内容や手順
- 外来種同士の依存関係を踏まえて駆除対策時に留意すべき点
- 島間移動種による影響
- 森林生態系の保全管理上今後必要な取組み
- 外来種対策の種別・実施範囲別の優先度
- 新たな侵略的外来種が侵入した際に想定される影響シナリオ
- 新たな侵略的外来種の侵入を阻止するために必要な優先度の高い取組み

### (2) 検討スケジュール

#### <平成 25 年度>

- ・既往知見収集…生態系構造の知見に比較的乏しい弟島を対象として、知見を収集・整理。
- ・概況調査（7月実施）

弟島	動植物の概況調査を実施。
兄島・父島	H24年度までの調査結果との比較のための補完調査を実施。 兄島（中央台地上の乾性低木林）及び父島にて、昆虫類ライントランセクト調査及び固有トンボ類成虫の確認調査を行う。

- ・考察…種間関係図（弟島、兄島修正版）、侵略的外来種侵入予測図（弟島）の作成

#### <平成 26 年度以降>

- ・平成 25 年度の検討結果や兄島グリーンアノール対策の進捗等を踏まえ、父島列島を対象として本格的なモニタリング調査・検討を開始。

事業名称：林野庁補助事業「世界遺産の森林生態系保全管理のための調査事業」のうち  
「小笠原諸島における森林生態系保全管理手法開発事業」

事業期間：平成 25 年度～29 年度の 5 年間（予定）

実施主体：平成 25 年度は、株式会社 プレック研究所